

茨高 茨中

春 秋

発行
 茨高・茨中 P T A
 代表 紺谷 智則
 編集
 茨高・茨中文化広報委員会
 水戸市八幡町16-1
 電話 029(221)4936
 茨高・茨中公式ホームページ
<http://www.ibaraki-jsh.ed.jp>
 印刷 いばらき印刷(株)



TONIKAKU
 P T A 会長 紺谷 智則

日頃より茨城中学校・高等学校の P T A 活動にご理解・ご協力を頂き誠にありがとうございます。今年には皆様が経験した事の無い暑い・熱い夏でした。私が茨城中学校に通っていた当時、三十六度が最高気温でした。水戸も四十度超えが連日続いた過酷な環境にも関わらず、部活動で練習に励み、さらに好成績を残した活躍には感銘を受けました。

酷暑が始まる前の四月に一人の日本人が、大舞台で世界中の人々を大爆笑させる動画が一斉に世界を駆け巡りました。トニカク安村のたどたどしい英語で、なぜネイティブに通じ笑いを取れたのかについて、実体験を基に述べたいと思います。

昭和世代は中学・高校で六年、学部により異なりますが大学で最低二年の合計八年間も英語を学びました。それでも英会話が出来た学生はほとんどいません。英会話教室に通ったり、海外留学を経験した学生は多少話せました。

院生の時に T 教授の学会のお供でカナダに向かった飛行機で、私は初めてネイティブと話しました。C A から機内食で「ピーフ」or「チキン」と聞かれ、英語が通じた喜びを味わ



い、次に「アイスウオーター」を注文したら水割りを出されて、教授に飛行機で酒を飲むなと怒られました。それよりも実は通じていないのか不安でした。カナダでは T 教授の知人のご令嬢で三歳の M ちゃんと数時間遊ぶ事となりました。最初の一言で自分の英語がこの子より劣っていることに衝撃を受けました。M ちゃんから赤ちゃん英語を教わり自信をつけた後、ニューヨークに移動しティファニーで買物を終え、次のレストランで食事中にトイレの場所を聞いた時、「トイレット」、「レストルーム」この二つは通じず、手で押さえて飛び跳ねてポディーランゲージで理解してもらいました。

これらの経験からトニカク安村の動画を見た時に、発音や文法が不完全なカタカナ英語を堂々と恥ずかしさも見せず、それ以上の恥ずかしいパフォーマン

ンスで審査員に通じていた事は大変感動致しました。日本には「恥の文化」がある為、正確な発音、文法や人称に間違いが無い様に気にし過ぎて、益々英語が話せなくなるのではないのでしょうか。まずは不完全で良いのです。カタカナ英語で十分です。それでも通じない時はボ



あはれ子の

校長 梶 克治

あはれ子の夜寒(よさむ)の床(とこ)の引けば寄る 中村汀女
 三十年ほど前、中学の国語の教科書に載っていた俳句です。自分も授業で扱った記憶があります。この句の主題は、母から子への愛情です。「夜寒」は秋の季語で、晩秋、夜になって感じられる寒さのこと。母親である作者が夜半にふと寒さを感じ、隣で寝ている我が子に気がなつて布団をそっと引くと、子を乗せた布団は思いがけない軽さで作者の手もとに引き寄せられます。その軽さに改めて子の幼さを実感し、しみじみと愛しさを感じた、というのがこの句です。

中学生たちが教科書から好きな俳句を選び感想文を書いた、その中の一人の生徒の感想文を読んでもほしい、というのです。その彼が選んだのが「あはれ子の…」の句でした。
 だいぶ昔のことで細部までは覚えていません。しかし、はっきりと記憶している箇所があります。「僕のお母さんは、僕が小学生のときに交通事故で亡くなりました。まだ小さくて、お母さんのことをよく覚えていないところもあります。でも、この俳句を読んで、きっと僕のお母さんも、寒い夜に、小さかった僕の布団を直してくれていたのだろうなあと想像し、お母さんの優しい気持ちを感じました」と涙がふれてきました。O 先生も目を赤くしていました。

今となつては名前も覚えていない彼の感想文には、悲しい、寂しい、といった文句は使われていなかったように思います。ただ、母の愛を詠んだこの俳句に重ねた、自分の母も生前はかくあつたに違いない、という優しい追憶のことばだけが綴られています。

中学、高校時代、子供たちの自我は急速に成長します。反抗期を迎え、時には親子間に溝を生じることもあるかもしれません。しかし、親と子の間には特別な絆があると思います。夜寒の夜、眠る子を気づかう親の思いにも、母の愛を詠んだ句に亡き母への思慕を重ねる子の思いにも、おそらく誰もが共感できるはずですよ。
 アメリカで P T A が誕生して、今年で二五年を迎えるとの記事を読みました。海に向こうで P T A が創設されたその出発点にも、子を思う親の思いがあつたのでしよう。記録を繰ると、本校の P T A 発足は一九五三年(昭和二十八年)です。茨城高校・中学の P T A がこれからも発展していくことを願います。
 感想文を書いた彼は、もう四十代半ばのはずです。今頃は子煩悩なお父さんになっているのでしょうか。感想文のことは、もしかしたら書いた本人も忘れていくかもしれません。しかし夜寒の季節になると、自分は今でもときどき「あはれ子の…」の句とともに、彼の文章を思い出します。

高校クラスマッチ

9月15日

総合順位

- <3年生> 1位C組 2位G組 3位H組
- <2年生> 1位A組 2位F組 3位D・E組(同点)
- <1年生> 1位A組 2位G組 3位C組

高三クラスマッチ優勝

高三C 佐藤 由宇

今回は、監督の高村先生がいない中での戦いとなり、選手の多くが不安を抱える中で迎えました。ですが全員がガチでガチガチにガチで楽しんで結果、大優勝という結果で終わることができ、大変嬉しゅうございます。結果だけでなく、本気でマジでガチで楽しかったです。ありがとうございました。



高二クラスマッチ優勝

高二A 伊橋 孝亮

今回前期クラスマッチで優勝することができて嬉しかったです。クラスマッチを通じて一人ひとりが競技に出ないときは自分らのクラスを応援し、競技に出るときは応援を背に受けながら精一杯頑張っており、このクラスは団結力がすごいと思います。後期クラスマッチでも、アレを達成できたらなと思います。



高一クラスマッチ優勝

高一A 林 浩太郎

私達のクラスではクラスマッチの数日前から競技ごとに作戦を立てて、他のクラスに挑んだ結果、優勝することができました。クラスマッチのおかげでクラスの絆がより一層強まったと思います。今回クラスマッチを運営してくれた生徒会の皆様、先生方、そしてクラスの皆、本当にありがとうございました。



総合順位

< 3 年生 >	
1 位 C 組	2 位 D 組
3 位 A 組	4 位 B 組
< 2 年生 >	
1 位 B 組	2 位 D 組
3 位 C 組	4 位 A 組
< 1 年生 >	
1 位 D 組	2 位 A 組
3 位 B 組	4 位 C 組



中二クラスマッチ優勝

中二C 高山 七海

私は、中学最後の前期クラスマッチで、自分のクラスが優勝できて嬉しかったです。理由は、私のクラスは今までクラスマッチで優勝したことが無かったからです。私は、茨城中学校に入学してから、一回でいいからクラスマッチで優勝してみたいなあとずっと思っていたので、今回の中学最後の前期クラスマッチで自分のクラスが優勝できて嬉しかったです。

中二クラスマッチ優勝

中二B 坂口 恵理

B組前期副委員長の坂口恵理です。前期クラスマッチではB組が優勝を勝ち取りました。放送で順位が発表されたときの喜びは忘れられません。この優勝はクラスメイト全員で掴み取ったものです。もちろん後期クラスマッチでも団結力を発揮し優勝を目指します。全員で優勝を目指し、クラスを盛り上げて、楽しいクラスマッチにしたいです。

中一クラスマッチ優勝

中一D 市川 翔太

初めてのクラスマッチで僕のクラスは優勝しました。どのクラスも皆で協力して頑張っていた様子が見られました。例えば、試合に出ない人は応援していたり、リレーで走っている選手を応援するなどです。僕は小六のころ、リレーで派手にコケた事があり、そのことをクラスの人に責められたことがあります。しかし、失敗しても責めたりせず励まされていてびっくりしました。今回のクラスマッチは僕にとっても楽しい思い出になりました。



2023前期 中学クラスマッチ

9月15日



高二研修旅行

十月十九日～二十三日

高校二年学年主任 鯨井 章二

秋晴れの中、四泊五日で広島・神戸・大阪・京都を巡るというとても内容の濃い研修旅行でした。この時代に生まれて良かった、日本に生まれて良かった、この仲間たちと行けて良かったと生徒たちも感じたのではないのでしょうか。
今回の研修旅行が心の糧となり、良き仲間とより良い日本、より良い時代を作ってくれることを期待します。

高校二年研修旅行実行委員長 高二E 高野 絢名
研修旅行という高校生活を代表するイベントが無事終わり、少しの寂しさや大きな達成感、充実感を覚えています。この五日間を通してクラスメイトや班員、実行委員のメンバーと深く関わることで、共助の大切さ、責任感など大きな学びを得ることができました。この経験、絆を大切にしていきたいです。



高二A 西 杏樹

原爆の悲惨な過去、厳島神社にずっしりと構えていた鳥居、なんとも煌びやかだった金閣寺―写真でしか見たことのない建物や場所に圧倒されました。四泊五日をクラスメイト達と共に過ごしたことは、私の忘れられない思い出の一つとなりました。直前に学級閉鎖があり、催行が危ぶまれていましたが、無事に行くことができ、計画を立てて下さった先生方や実行委員の皆さんには感謝です。



高二B 加瀬 煌侑

まず、高校最大のイベントといっても過言ではない研修旅行。感染症が蔓延する中、B組のメンバー三十人がこの旅行に参加できたことを嬉しく思う。一緒に過ごしてきた仲間の今までに見たことのない一面を知ることができ、更に今まで関わりがあまりなかったクラスメイトとも交流できた。学生時代最初で最後の研修旅行は新鮮な体験ばかりであった。日中の活動のみならず移動や宿舎での出来事も忘れられない思い出になった。



高二C 堆 柑奈

私達が行った研修旅行は、しおりをみるだけで心が踊るくらい、有名なお寺やお城を巡ったり観光地を歩いたりする予定が詰まっていた五日間でした。そして話し出したら止まらないくらいたくさん思い出が出ました。当分話の話題に尽きることは無さそうです。途中、訪れたお寺が閉まつているなどのハプニングもありましたが、そんなことも笑いに変わって楽しめるような友達と研修旅行に行つたことは私の大切な思い出になりました。



高二D 富安 美颯

班別行動の日に北野天満宮の近くで迷子になった時に通りすがりの方が道を教えてくれました。バス待ちの時にも「楽しんでね」と京都弁の優しい口調で話しかけてくれた方もいました。ホテルに帰る際のバスでは、混み合っているバスの中で小さな女の子に外国人の旅行客らしき人が席を譲っているのを見ました。世界遺産や国宝の建物も美味しい食べ物も印象に残ったものはたくさんあります。温かきでした。



高二E 相川 実潤

私達は校舎から飛び出し、関西へと足を運んだ。そこまでの足となった新幹線。車窓から見える様々な景色はまさしく日本を表していた。最初に訪れたのは原爆ドームと平和記念資料館。信じられない現実を写した写真でも私は目をそらさなかった。写真の中の罪のない少女と交わした平和の約束は一生忘れられない。その他にも、姫路城、大阪城、京都。そして、友とのかけがえのない会話。帰りの新幹線は、受験生への片道切符である。



高二F 久保 樹哉

今まで言葉や文字だけで認知していた日本の歩んできた長い歴史を改めて学んだ研修旅行。広島では二度と悲惨な戦争を引き起こしてはいけないという破ることの許されない約束。京都では古より残され、伝承されてきた日本独自の伝統。そして遠い昔から今に届けた先人たちの生き残った痕跡をしっかりと心に刻みこみ、過去に日本という国を生きていた先人たちの想いや未来に生きる次の世代への願いというものを全身で感じる事ができた。



国際教養コース ニュージールランドへの留学を終えて

高二G 西念 澁暁

ニュージーランドでの五ヶ月間の留学生活は、振り返ってみるとあつという間だったようにも感じます。長かったようにも感じます。全く異なった環境での生活は、戸惑い、苦労が絶えない大変なものでしたが、負けないくらい楽しくて、嬉しいこともたくさんありました。英語力については、まだ完璧とは言えませんが、着実な進歩を感じており、現地校の色々な国出身の友達とのコミュニケーションを通して、新たな視点を学び、唯一無二の経験をする事ができました。早く帰りたいと折れそうになったこともありましたが、今では行ってよかったと心から思える留学になりました。



中三研修旅行



中学三年学年主任

作山 友孝

十月十三日～十六日の日程で奈良・京都方面の研修旅行に行つてまいりました。目の前に次々と現れる本物の国宝群に感嘆のため息を漏らし、奈良公園で次々に群がる鹿たちに翻弄され、京都のタクシー研修では、それぞれのグループの趣味嗜好に合わせた思いのルートにて、ディープな京都を堪能することができました。皆の顔からは楽しい気持ちと興奮があふれ、全力で研修旅行を満喫することができました。

研修旅行実行委員長

中三B 野村 一颯

待望の京都・奈良研修旅行！この研修旅行は私達が中学一年生のころから先生方が準備していたことにとっても驚きました。それは、過去最高の思い出と断言できくらい楽しく有意義なものでした。そこで私が紹介したいのは座禅体験です。住職の方が体験談と共に「禅」の教えを話したり座禅のやり方など教えてくれました。初めての座禅や能・狂言の鑑賞など実際に体験しないと学べないことばかりでした。話しても話さないほど学びや思い出が詰まった四日間でした！



中三A 平野 郁佳

研修旅行は、いつもと違う景色にみんな、好奇心や驚きを隠せず、興味津々な表情で始まりました。私達は奈良の金魚ミュージアム、京都の北野天満宮に行き、現在と昔について学びました。また、伏見稲荷大社や清水寺などの様々な場所に訪れ、古都ならではの町並みや風情を感じられました。入念に計画してくださった先生方や研修旅行委員の方々の協力のもと、とても楽しく多くのことを学べ、一生記憶に残る研修旅行になりました。



中三B 山本 歩実

私は今回の研修旅行で奈良・京都の魅力を感じながら非日常な時間を過ごすことができました。タクシー研修では、私の班は着物を着て嵐山と伏見稲荷に行き、京都の町並みを楽しみました。嵐山では抹茶を使った和菓子や湯葉を使った料理を食べたり、沢山の海外の人に声をかけてもらい一緒に写真を撮ったりすることができました。また、座禅や能の鑑賞体験をしたことで日本文化の偉大さや美しさを大いに実感しました。これからも日本の伝統文化を積極的に勉強していきたいです。



中三C 黒沢 優真

研修旅行で特に印象に残っているのは平等院と法隆寺です。平等院鳳凰堂は真正面からの風景がとても綺麗で偉大さを感じました。十円玉に描かれていることもあり、見たいと思っていたので嬉しかったです。法隆寺では玉虫厨子に、教科書の写真とは違う迫力を感じ感動しました。やはり「百聞は一見に如かず」という言葉の通り、本物を見ると、より理解が深まると思います。この研修旅行で、授業で触れたことが実際に身近に感じる事が出来ました。



中三D 小林 怜瑠

三泊四日の奈良、京都での研修旅行、私は学年やクラスの色がより一層深くなる行事だったと感じている。寺社仏閣の見学も素晴らしいが、友達との学校生活以外での四日間は、これまでにない貴重な体験だったと思う。私は、三日目の別タクシー研修が一番楽しかった。それぞれの班に、研修の目的やそれに沿った行き先があり、充実した一日を過ごせた。研修旅行に携わっていたいた先生方、最高の四日間をありがとうございました。



野球応援

7月15日 鹿島
 7月18日 水戸葵陵
 7月20日 常総学院
 7月22日 明秀日立



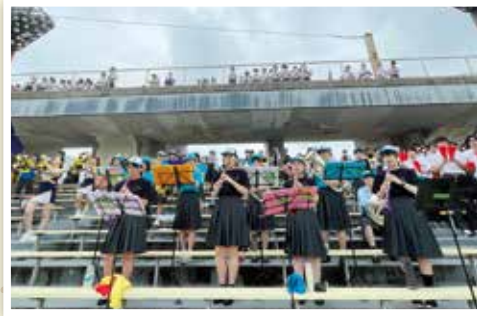
教員代表 青木健一郎
 今夏の茨高野球部の躍進は、高校野球の歴史を塗り替えるような出来事であった。私はその歴史的瞬間に居合わせるという僥倖に恵まれ、ナインと歓喜を分かち合うことができた。
 どの試合も終始息を呑む闘いであった。わけでも常総学院との決戦は、幾度も逆転の危機に瀕しながら見事勝利を手中に収める、これぞ高校野球と呼ぶにふさわしい名勝負であった。
 観客を沸かすヒットの連打や球場全体をわが物としていたエース佐藤君の勇姿、吹奏楽部とチア、スタンドが一丸となって作り出す糸乱れぬ応援の迫力はどれをとっても正に圧巻であった。私はこの夏、目にした光景を長く忘れないであらう。



団長 高二C 富田 一帆
 私たち応援団は六月頃から練習を始めました。一ヶ月という短い時間ですべての動きを覚えなければならず、しつかりできるか不安になりましたが、本番で野球部の皆様が最高の環境で試合ができ、相手校の応援に負けないように、不安を跳ね飛ばして全力で練習に取り組みました。その練習が実ったのか、本番では全力で応援することができました。
 今考えるところは練習も、全力を出した応援も高校生活の良い思い出として残ると思います。
 最後に一緒に頑張った応援団の皆様、応援団に協力してくれた皆様、そしてあの場所まで連れて行ってくれた野球部の皆様、本当にありがとうございました。



チア 高二C 綿引 心美
 私は野球応援のチアを通して昨年とは違ったものを沢山得ることが出来ました。文化祭を終えた後からチアの振り付けを覚え、動きを揃えるために放課後は大ホールで練習し学年関係なく助け合って形作っていく様子や、当日は汗だくになりながらも精一杯踊り生徒や先生方と一緒に声が枯れるまで声援を送る様子は、まさに一致団結と呼べるものでした。野球部の皆さんのおかげで四回も球場で踊ることができ、ベスト8入りの歴史的瞬間を見届けられて光栄でした。野球部の皆さん、隣で共に応援してくれた応援団、チアを支えてくれたサポート、全力で応援してくれた生徒や先生方、本当にありがとうございました。



吹奏楽 高二E 菅原 優空
 今年は全ての試合で野球応援をさせていただけただけのことを大変嬉しく思います。野球応援を振り返ってみて一番印象に残っているのは、吹奏楽部員が応援をするうちに体が自然とバッターの方を向いて演奏をしていたことです。これは各々の応援を届けようという気持ちから出たものだと感じます。「届ける」というのは自分が思っているよりも何倍も表現をしないと伝わらないということは何度も指導をうけています。そうした中で野球応援は吹奏楽部の中で「届ける」ことを各々が意識した貴重な時間でした。

グローバルエンジニアリングセミナー

英語科主任 内田 裕史

高三B 増淵 愛

七月三十一日から八月二日にかけて、今年もオールイングリッシュのグローバル・エンジニアリングメント・プログラムを展開しました。今年のテーマは「ITやChat GPT」。

昨年を上回る七十四名(中三(高三)が八つのグループに分かれ、J.C Davisの藤田齊之先生のもと、東京大学大学院の留学生十二名と対面でのグループワークを行いました。参加者たちは、三日間を通じて英語力の向上だけでなく、国際社会に必要なグローバルスキルを磨く姿勢を見せ、充実した三日間となりました。

中三B 小野瀬 彩

私はこのプログラムから、間違えても何度も挑戦し自分から英語を話すことの大切さを学びました。最初は、英語でのコミュニケーションを取ることの難しさを痛感しましたが、外国人の留学生の方や先輩方が優しくサポートしてくださったおかげで最終日には英語で話すことに慣れ、プレゼンテーションも自信を持って堂々と発表することができ、自分自身にとって非常に有意義な時間となりました。



二度目の参加となった今回のテーマは、「AI社会における人間の役割」について。難しい議題だからこそ、「ただ話す」だけの英語力ではなく、「考えて話す」力を養えた三日間を過ごせたと思います。自分の考えをうまく伝えられた時の喜びは自信に繋がります。思うように話せず感じた悔しさは、今後の自分の学びと向き合う良い機会になりました。素晴らしい経験をありがとうございました。

大学見学

進路指導部主任 横倉 友博

今年の東北大学オープンキャンパスは四年ぶりの通常実施となり、高校生八十三名を引率しました。現地では、川内・星稜・青葉山キャンパス、それぞれに分かれて見学をしました。また、キャンパスの見学だけではなく、一日目は本校出身の東北大の学生・大学教員を交えての会食、二日目には、工学部の石山和志教授、文学部の坂井信之教授による特別講義と特別な内容を盛り込んだ実施となりました。多くの生徒にとって、将来の進路を考えるきっかけや本気で学びたいと思う何かを見つける機会になってくれたのではないかと思います。



高二F 小田 稜真

私は、七月二十六、二十七日の二日間東北大学オープンキャンパスに行きました。私が最も印象的に思ったのは医学部のキャンパスです。そこでは医学部実習体験会が実施されていました。私は医学部生が本名の医師のように全員同じ制服を着て、私達に寄り添って丁寧に説明している姿に驚きました。この体験で、大学生が自分の思う理想の自分に向けて意識高く真剣に学ぶ雰囲気を感じました。私はこの二日間で大学や学生の雰囲気を知ることができました。私もこのような大学生になれるように勉強に励みたいと思います。

第二十一回 PTA校外研修

PTA校外研修役員 中野 直子

今年のPTA校外研修会は創立記念日の十月三日にPTA会員様四十二名にご参加いただき筑波大学見学に行つてまいりました。

当日はお天気に恵まれて、広いキャンパス内に参加者同士で自由に散策されたり大学ミュージアム内を見学したりして過ごしました。その後ホテル日航つくばへ移動をして、本校卒業生一人に講話をいただきました。筑波大学の学生生活の様子や志望動機、受験勉強期のエピソードなどをいきいきと語られ、またその意欲に満ちた模範的な姿に感心することしきりでした。昼食もとても好評で、食後の懇親タイムは、リラックスした雰囲気の中で情報交換や交流を行える場になったと思います。さらにその後、牛久シャトーへ移動をして近代化産業遺産に認定されたワイン醸造所や国指定重要文化財に指定された素敵な建造物などを見学いたしました。ここ数年の研修会は中止や縮小などがありました。今回は例年通りの研修会を実施することができました。また全行程を予定通りに行うことができましたことを、関係者及び参加者の皆様に心より感謝を申し上げます。来年度も校外研修会に多くの方々にご参加いただければ幸いです。



中二 林間学校

七月二十五日～二十八日
福島方面

中二学年主任 佐藤麻希絵

中二林間学校実行委員長
中二C 大山 詩央

七月二十五日～二十八日、林間学校に行ってきました。一日目は五色沼散策。磐梯山噴火の賜物であり、生い茂るヨシやガマのため「だんだん狭くなっていく」という、美しい水色の沼を楽しみました。二日目は磐梯山登山。それぞれの体調に応じて、一歩一歩、着実に。山頂での、「テストでいい点を取ったときより、達成感がすごい!!!」との生徒の言葉が印象的でした。三日目は「あかべこ」制作と鶴ヶ城見学。途中、車窓から望む磐梯山は雄大で「昨日、あの頂上にいたんだ!」との感慨もひとしおでした。宿での食事はビュッフェ形式だったので「おかわり」をする人の多いこと!「会津山塩ラーメン」「パンケーキ」など、魅力的なメニューの数々。時間ぎりぎりまでおかわりをしている二十八期生たちを見て、その元気を、たくましさに感動した三日間でした。



林間学校実行委員長を務めました、中学二年C組の大山詩央です。五色沼では、ガイドさんの説明を聞きながらトレッキングをしました。様々な名前の沼があり、沼によつて違う色をしていてとても綺麗でした。空気も美味しかったです。また、磐梯山は往復八時間かけて登りましたが、普段登山をする私にとっても、岩場が多く辛い山でしたがなんとか頂上まで到達できました。あの達成感は格別です。みんなと登ったから切り切れたのだと思います。他にはあかべこ土鈴を作り、鶴ヶ城の見学をしました。みんなでお泊りする事も初めてでしたが、とても楽しく思い出に残る林間学校でした。準備してくれた先生方、送り出してくれた家族に感謝します。



英語プレゼン ティションフォーラム 県知事賞受賞!!

高三D 市原涼太郎

野球部が素晴らしい活躍をしてたくさんの勇気をもらい、五人のメンバーと「中先生、木村先生合わせて七名のチームで約二ヶ月間、茨城県制覇を目標に、準備と練習に励みました。『Japan is Sinking—Time for Titanic Change!』は日本の教育の変革こそが経済や社会により良い影響を与えることができるという趣旨で発表しました。当日は、大きな会場で大勢の聴衆の前に、全員が堂々とパフォーマンスし、昨年度の準優勝に続き優勝を勝ち取ることができました。来年度以降も後輩たちが優勝を積み重ね、常勝軍団に成長してほしいと思います。



夏休み テーマ別課外

◆進路座談会

高一E 高橋陽美夏

座談会では先輩方の経験を踏まえてアドバイスしてくださったので進路を考える上で様々な視点を持つことができ、選択肢の幅が広がったと感じました。「自分が将来したいこと、なりたいたいもの」「自分が好きなこと」を大切にしたい。そのためにも、高校生活を謳歌しながらも日々努力を積み重ねて欲しい。」ということも多く先輩方が仰っていました。

この座談会に参加し、自分の成長への意欲を高めることができました。



◆スコーン作り

高一F 住谷 和美

学校でスコーンを作って食べられる!私は茨城高校での初めての調理実習に胸を躍らせてこのテーマ別課外を選択しました。生地をこね、型をとって焼き上げるのを待つ…。友人と協力してスコーンを手作りするのは、普段の学習とは違う、とても和やかな作業でした。焼きあがったスコーンには本場の食べ方なのっとりクロテッドクリームを塗り、ダージリンティーと共に頂きました。この美味しさたるや…そこは家庭科室ではありません。ロンドンの昼下がりでした。優雅な時間を過ごせ、大満足の課外授業でした。

